

# 「限界集落」道内に570

## 道が初調査 「10年後」は4倍

道は二十三日、住民の半数以上が六十五歳以上で近い将来に消滅の恐れがある「限界集落」についての実態調査結果を発表した。道内すべての「集落」のうち9%にあたる五百七十力所が「限界集落」で、住民の半数以上が五十五歳以上の「十年後の限界集落」はその四倍、全体の三分の一を超えていた。道は結果を詳しく分析し、今後の過疎対策に反映させる。

調査は、今年三、四月に道内全市町村を対象に初めて実施した。道内の「集落」は、百七十六市町村に二二、百十九力所、計六千六百二十九力所あり、うち「限界集落」は五百七十力所（百四十四市町村）だった。

管内の集落数に占める「限界集落」の割合が高かったのは松山管

が、管内の集落数に占める「限界集落」の割合が高かったのは松山管

調査では、「集落」の定義を「一定の土地に数戸以上の社会的まとまりが形成された、住民生活の基本的な地

「十年後の限界集落」は百六十五市町村の二千三百九十六力所（36%）に上った。

調査では、「集落」の定義を「一定の土地に数戸以上の社会的まとまりが形成された、住民生活の基本的な地

策が北海道の将来にとって重要だということ

「限界集落」の全国的対象が過疎地指定された状況については、国土交通省が昨年八月に調査結果を発表。調査対象が過疎地指定された市町村に限定されておらず、今回の道内調査とは単純に比較できないが、「限界集落」の全集落に占める割合は全国で13%、道内は8%とされていた。